池の中の動物

20年前頃までは，身近なところにすんでいて，親しまれたり・実験に使われたりしていた動物が，近ごろ池・沼・水田などの埋め立てや，水が汚れたりなどして大変その数が減ったり，姿が見えなくなったりしたものがいます。

ところが，自然の豊かな小田の池には，これらの動物がまだ生き残っていました。しかし，観光地になって，ひとびとが多くなった小田の池には，外国の動物がもちこまれて，昔からすんでいた動物をいじめ始めているようです。

小田の池に生き残っている動物

トノサマガエル

昭和40年（1965）頃までは，子供達の遊び相手・学校での実験材料・水田の有益動物とされていました。近ごろ，大分市や別府市などでは，ほとんどその姿を見ることができなくなりました。

トノサマガエルは，中国の北部や朝鮮半島にもすんでいます。日本にすんでいるものは，大昔，日本列島や朝鮮半島とつづいていた時，やってきたのだといわれています。日本で，2000年前頃（弥生時代）からイネがつくられるようになると，水田にすむようになって，前からすんでいたダルマガエルを，中部地方・近畿地方・山陽地方へおいやってしまいました。

そして，九州・中国・四国地方などの水田にすむカエル類の王者になったのです。しかし，その王者は，人間らによってほろぼされているのです。

ドジョウ

北海道から琉球列島の池・沼・川・水田などの泥の部分には普通にすんでいました。近ごろ，都市のまわりやいなかの方でも，ほとんど見かけなくなりました。小田の池の南の方から流れこむ小さい流れには，かなりすんでいますが，水鳥のよいえさ場になっているようです。

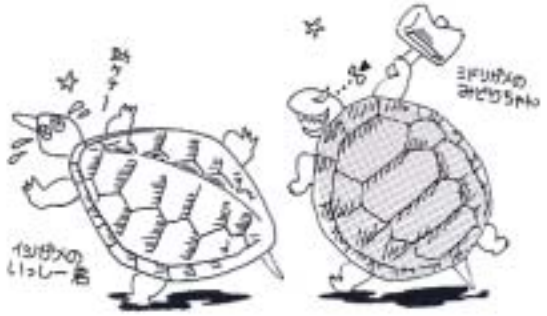
イモリ

本州・四国・九州の池・沼・水田などの水たまりに普通にすんでいて，「アカハラ」といって親しまれていました。近ごろこの動物も，都市はもとより，いなかの方でも見かけることが大変少なくなりました。小田の池では，ドジョウと同じ小さい流れのところにすんでいます。

外国の動物が，小田の池に放流されて，帰化動物になっています。

ブルーギル

昭和35年（1960）にシカゴのジェッド水族館より，伊豆半島の一碧湖に放流されたといわれています（水野信彦1976）。近ごろでは大分県内の池・沼などでも見られるようになりました。昔からいた魚などをいじめますので，絶対放流しないように，注意しましょう。

ミシシッピーアカミミガメ

原産地は，アメリカのオハイオ・アイオワ州などです。目の後ろの方に赤い模様があります。子ガメは「ミドリガメ」といって，ペットとして飼育されています。昔からすんでいるイシガメやクサガメなどを，いじめますので，絶対放流しないよう注意しましょう。